

子桑戸・孟子反・子琴張、三人相い与に語りて曰く、孰か能く相
い与することなきに相い与し、相い為すことなきに相い為すや。孰か
能く天に登り霧に遊び、無極に撓挑し、相い忘るるに生を以てし
て、終窮する所なきやと。三人相い視て、心に逆らうこと莫く、
遂に相い与に友たり。莫然として間ありて、子桑戸死す。孔子、子
貢をして往きて事を待たしむ。或いは曲を編み、或いは琴を鼓
し、相い和して歌う。嗟来、子桑よ、而は已に其の真に反る、而し
て我は猶お人たりと。

【大体の意味内容】

子桑戸と孟子反、子琴張の三人が語り合った。「特にコミュニケーションをとろうとはし
ないまま、深い交わりをかわせる人がいるだろうか。おためごかしに親切を押し付けるこ
となく、本当の思いやりをかけあえる人はいるだろうか。天に登って、まるで霧のように
無限の虚空を巡り遊ぶ人は？ 限りある生を忘れて、窮まりのない遊働世界に融和する者
がいるだろうか。」三人は互いを見て、心から打ち解け、そうして友となった。それか
らしばらくの時が過ぎて、子桑戸が死んだ。これを知った孔子が、弟子の子貢を葬儀の手伝
いに遣わした。（ところが孟子反と子琴張の二人は、）一人が蚕棚のすだれを編み、一人
が琴を弾いて、声を合わせて歌っていた。「ああ、子桑よ、君はもはや君の『真』に還った、
我々はいまだ人である」と。

来週に続きます。

この場面のラスト、『論語』という「宇宙第一の書」の主人公で偉大な学者の孔子が、門人の中でせむぎに上がらで腕っぷしの強い子貢を葬儀の手伝いにやるシーンがありました。子貢としては、葬儀のあとで子桑戸の亡骸が入った棺桶を担いで埋葬場所へ運ぶつもりでいたのでしよう。が、着いてみると、厳粛な葬儀が行われていくというか、二人は友の遺骸を放置したまま生糸づくりの準備作業や、琴を弾いたりしながら意味不明な歌を歌っている… 「ほっ」と目が点になる子貢。「それって、この郷での礼儀作法なんすか?」と聞きますが、二人は顔を見合わせて笑うと「この男! 『礼』の何たるかなんじ、わからんな」とつぶやくの。子貢は孔子のもとへ帰ると、興奮してまくしたてます。「先生! 奴らいったい何なんすか!?! 礼儀知らずで、友が死んだってえのに悲しんでる感じじゃねえです。死骸の前で歌なんか歌ってやした! なんなんすか、奴ら!」さすがの孔子も「あちゃあ、この男をやったのはまずかったか」と後悔して、彼らの境地について説明します。それについては来週また。

私がダンテリオンを始める前、前職の教室に最終出勤した日のことを思い出します。その日の教室の様子は、なんだか、自分の葬式を見る感じがして、不思議と楽しかったのです。ちょうど公立入試の合格発表の日でした。一人だけ不合格者が出てしまいました。彼は一番乗りで教室へ来てくれて、全力を出きったから悔いはないと、真っすくな表情で伝えてくれ、他の合格者たちが来る前に帰っていきました。なんとというか、見事でした。その後ろ姿に頭を垂れるしかありませんでした。

合格者たちが集まり、私の退職の日でもあったので卒業生たちや保護者達もパラパラと教室を訪れてくれ、久しぶりにかつての仲間と再会したので、私にお花とか小物とかを供えたあとは、教室や廊下のあちこちでみんなワイワイきゃあきゃあ優勝手に花を咲かせ旧交を温めています。お葬式の場合、実質的にはちょっとした同窓会場になり、パーティーの趣も呈しますよね、ちょうどそんな風景でした。で私はどうと、合否状況を本部に報告するために入力したり、合格体験記を書いてもらって入力したりと、ずっと仕事仕事の一日。まあ、誰の相手もしないけれどみんな楽しげにこの空間で過ごしている、妙に幸せな気分でした。

いついて、子どもたちや、保護者という戦友たちが集まってくれて、それぞれ思い思いに楽しむのかもしれない。